

## 各室意見書（課題の共有を目指した研究提案）①自由テーマ

協働研究の名称 「DV防止のための予防教育・啓発をいかに進めていくか」

室名 生徒指導・健康教育室

担当者名 西村 茂

審査項目及	意見の視点	担当室意見
①提案の 目的の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案の目的は明確かつ妥当と認められること。</li> <li>「新しい時代の公」の考え方が提案に反映されていること。</li> <li>NPOのミッションとの関連が<u>適当</u>と認められること。</li> </ul>	目的は明確であり、アンケート等の実施も妥当と認められるが、テーマと比較すると「研究の内容」では10代の出産～子育てと、中身が絞られており、性教育及び若年者支援という認識になることから、疑問が残る。
②提案の県との 協働の必要性 (協働の効果・利 点・NPOと県の 役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO独自で行うことができず、<u>県と協働で行う必要性</u>が高い内容と認められること。</li> <li>NPO若しくは県が<u>単独で行うより高い効果が挙げられる可能性</u>が認められること。</li> <li>NPOと県の役割分担や<u>公的関与の必要性</u>が明確かつ妥当と認められること。</li> </ul>	10代の妊娠～出産を取り上げるとなると、プライバシー保護の観点から学校現場が個別対応を行う事案となり、協働は難しい。 中学校を対象とする場合は、市町教育委員会との関係も必要となり、広範な対応が必要となる。
③提案の 緊急性・重要性、 先駆性・先見性、	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案の<u>緊急性</u>やその実施が<u>重要</u>と認められること。</li> <li>提案内容にNPOの<u>先駆性</u>が活かされていると認められること。</li> <li>課題の内容に<u>先見性</u>が認められること</li> </ul>	DVは現代の社会問題であり、防止のための施策が必要となっている。子どもを主体として見た場合、親のDVにより心理的・身体的虐待を受ける児童生徒が多くあると考えられ、その防止対策が求められている。よって、DVの中でデートDVに特化することが適切であるか疑問である。
④提案の 具体性・実現性 (事業遂行能力、 予算の妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の担当者と一緒に研究し、研究成果を<u>練り上げ</u>、事業を<u>遂行する能力</u>を有していると認められること。</li> </ul>	DV未然防止については、いじめや暴力行為などの問題行動の防止教育とともに、学校において実施することと考える。

※この意見書は、NPO室のホームページで後日公開する予定です。